

シーオス(東京都渋谷区)の松島聡社長(47)の著書「UXの時代—IoT(モノのインターネット)とシェアリングは産業をどう変えるのか」が6日、発売された。UXとは「ユーザー・エクスペリエンス」の略で、松島氏は「モノの価値ではなく、UXつまりユーザーにとつての体験価値を理解し、見極めることがこれからのビジネスを創造する上で極めて重要」と紹介している。

松島氏はアンダーセン・コンサルティング(現アクセンチュア)で8年間、起業して15年間、ロジスティクスとテクノロジを軸に、多様な産業の課題解決や組織改革に携わってきた。

松島 聡氏 シーオス社長



著書「UXの時代」発売

た。著書では「ロジスティクスにどう移行すべきか」、クスの分野で積んだ経験は第4章「シェアリングエコノミーを支えるIoTテク」時代に無い。テクノロジ・UXの時代は、序章「地ノロジ」、第5章「UXの進化で、これまで不可能殻変動の予兆」、第1章「垂直創造のビジネス戦略」、第6章「UXビジネスの障壁」、第2章「あらゆる壁」、終章「ネクスト・メソースがIoTでつながるイン・フィールドへ」——第3章「UXビジネスで構成」。

終章では「今ほどチャンスが世の中にあふれている大きな財産と記している。ノミーを支えるIoTテク」時代に無い。テクノロジ・UXの進化で、これまで不可能殻変動の予兆」、第1章「垂直創造のビジネス戦略」、第6章「UXビジネスの障壁」、第2章「あらゆる壁」、終章「ネクスト・メソースがIoTでつながるイン・フィールドへ」——第3章「UXビジネスで構成」。

足、すなわちUXを求めるようになった。産業主導の経済は終わり、ユーザー主導の経済が始まっている」と分析。

「UXを最大化するビジネスのために起業すること、ユーザーが主導するシェアリングエコノミーの創造に参画することであり、新しい

鍵のビジネスこそ体験

時代を創り出すことだ」とし、より多くの人に企業のチャレンジを促す。

最後に、「新しいビジネスが成功したら利益を囲い込むのではなく、経験と資金を生かして次のチャレンジを支援して欲しい。このような生態系が広がればネクスト・メイン・フィールドも広がり、日本経済は活気を取り戻すだろう。より多くの人がつながり、幸福を分かち合う社会が実現する」と締めくくっている。

初版5千部(英治出版)、計246ページで、一部1800円(税抜き)。全国の書店で購入できる。アマゾンの「売れ筋ランキング」で、順位が上昇中。